

本を選ぶ

高校図書館版

NO. 9 1990年(平成2年)5月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

本社 〒162 東京都新宿区下宮比町2-28 飯田橋ハイタウン517 TEL 03-235-6168

ぶつく・えんど

主体は子どもたち

薦のからまる鶯張りの図書室——これが私の高校時代の図書室。卒業アルバムの1ページにはとても絵になって美しい図書室。だが、その図書室で本を読みふけたという記憶はないのだ。ただ重く苦しかった高校時代、心が安らぐ場所だったことは覚えている。昼休みではなく、放課後友人とよく行ったものだ。図書室は、校舎の端の方の最上階にあり、高い書架に本が整然と並べられていた気がする。中央に大きな机といすがあり、今思えば授業にも十分使えるようにはしていたのだろうが、そこで授業をしてもらった記憶はない。とにかく高校時代は本を読む余裕などなく、大学受験のために引かれたレールの上を進んでいくのに皆が必死だった。

そんな思い出の中の図書室も、私が大学4年の教育実習の時には新校舎になっていたが、1階の一番端というやはり教室から縁遠いところに位置していた。

さて、ゆとりの教育なんて言葉が聞かれて久しいが、実際、教育現場にそれがいいのか。ないどころかますます受験競争は激化し、現場の教員は学習指導要領の内容の多さにふーふー言っている現状。私の勤めている公共図書館のすぐ近くの小学校の児童は、3年生ぐらいからだんだん塾等で忙しくなるらしく図書館に来なくなる。6年生が集団で来るようになったなどと思ったら、皆で宿題を仕上げ帰るといふ具合。ただ、帰りに本も借

りようになったのでこれはしめたと思ったのだが、どうやらそのクラスの先生が「読書」を班競争化させ、読ませていることがわかった。ちなみにマンガだと1冊読んでも10ページ分にしか相当しないらしく(マンガだって内容的にかなり優れたものがあるのに)、その子は私に「速く読めてページ数の多い本、なんかなーい。」だって。これでは自分の好きな本を読もうという気力さえわいてこないではないか。読書＝読解力というふうに効果をねらいたいのだろうが、だとしたら読書＝楽しみではなく、読書＝苦しみをうえつけてしまわないか。

ところで、うちの図書館もかなり予算がなくその貧しさの中で選りすぐって本を購入しているつもりだが、これが小・中学校にいたっては司書がないためにとってもひどい。予算も微々たるものであり、忙しいのでつい、選書を書店にまかせてしまう学校があるのも事実だ。そして、本の整理となるとふだんはできないので夏休みに集中してやるということになり、自ずとどここの図書室も決まりきった全集ものが並び、借りられることもなく終わってしまう。

いまどきの子は本を読まなくなったなどというけど、読まないのではなく読みたくても読めないのではないか。教員、親、図書館員の「読書」に対する立場が違うがゆえの価値観の相違。しかし何といても主体は子どもたちなのだ。昔読んだ絵本を手にして懐かしそうに微笑する女子高生たちの姿を図書館で見ていると、それぞれが相互協力を深め、連帯の絆をもっと強めていくことが必要ではないかと思ふ。

(小野 永子：大分県立大分図書館司書)

司書のいない図書館

木下通子

学校図書館の現状は？

司書がいない公共図書館って考えられますか？もちろん公共図書館に働く方も、司書という採用で勤めている方、資格を持っていない臨時職員の方などさまざまな方がいらっしゃると思います。でもそこに人のいない公共図書館、扉だけ開いている公共図書館は、なかなかないのではないのでしょうか……。

ところが同じ図書館である学校図書館の中にはほとんど、そこに働く人がいません。全国的に見るとそれでも高校図書館には8割位の学校に、司書または学校司書、それから実習助手、事務職員という形で図書館の仕事をする人が置かれていますが、小・中学校を見てみると、2割程度の学校にしか図書館の仕事をする専任の専門職員の人が置かれていない状況です。

鍵の掛かった図書館

司書がいない学校、特に小・中学校の図書館の状況はかなり悲惨なものです。図書館はいつも鍵が掛かっていて開いていない。その中で毎日の昼休みや放課後だけでも開くのは良い方で、いくつかの学校は週3回くらいの昼休みしか、係の先生が図書館を開けられない。それ以外の時間に本を借りたい生徒は、図書係の先生に鍵を借りに行き自分で鍵を開け本を借りているのです。

それでも熱心な図書係の先生がいる学校はまだ良い方で、地域の方々（特に文庫のお母さん）と協力をして、お話をしたり、読書会をしたり、子供達に少しでも本を読んでもらおう・好きになってもらおうと色々な企画を立てていらっしゃいます。しかし、熱心な先生でも色々な学校行事に追われ図書館にかけられる時間がとれず、小さい子供に本を貸すことを教える事ができないからと、小学校の低学年には本を貸せない学校もたくさんあります。

すべての学校図書館にひとを！

そんな学校図書館の状況を少しでも良くしようと、私達学校図書館問題研究会のメンバーは、昨

年の夏に「すべての学校図書館に専任の専門職員を！」というアピール文を出しました。私達の研究会は高校図書館の職員だけでなく、実際に小・中学校の図書館で働いている方々もたくさんいて、その方達の“全国的に2割しか専門の職員がいない小・中学校図書館をどうにかしよう”という思いは切実で、小・中学校図書館に専門の職員がいないことを知っていても、それが現実的な問題になっていなかった、私達高校の図書館職員にもかなりの刺激を与えてくれました。

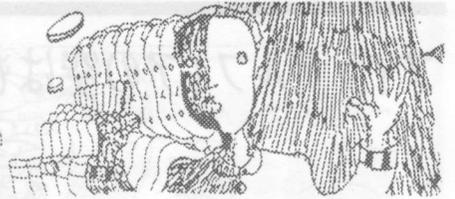
小・中学校図書館の実態調査

そこで私達、高校図書館の職員も小・中学校図書館に人を置く事に対して何か働きかけが出来ないものかと考え、学図研・埼玉支部の会員がいる地域の小・中学校図書館の実態調査を行いました。

埼玉県内4市、越谷市・川越市・飯能市・岩槻市の小・中学校を会員が手分けして訪問し、実際に図書係の先生にお会いして図書館を見せて頂きながらお話を伺う、という調査を行ったのですが、一つの市でも小・中学校の数はたいへん多く、少ない会員で全部の学校を回る事は難しく全校の調査が出来なかった市もありました。が、越谷市などは市内の文庫の方など私達の会員以外で小・中学校の図書館をなんとかしたいと思っている方々といっしょに訪問を行うというすばらしい出会いもありました。

交流をもつ

実際に小・中学校を回り、図書係の先生と交流を持ち、図書館を見せて頂けた事はたいへん大きな収穫でした。私も自分の勤務先のある岩槻市の小・中学校を何校か訪問し、図書係の先生とお話をしたのですが、先生方はみなさん「学校図書館は片手間でできる仕事ではない」「いつでも開いていて、誰でも使える図書館にしていきたいが、今の状況ではとても無理なので、高校図書館のように専門の人がぜひほしい」ということをおっしゃっていました。先生方の中でも、大学の時に司書教諭の免許を取った方や、司書の資格を持って



いらっしゃる方はまだ良いのですが、図書館の事を何も知らず、新任できていきなり図書係になってしまって困っている先生が意外と多いのに驚きました。

この調査をきっかけに小・中学校の図書係の先生と交流を持たせたこともたいへん大きな収穫でした。小・中学校の時に生徒達がどんな図書館経験をしてきたのかという事を知りたくても、司書がない学校図書館とは交流を持ちづらく、カウンターで生徒から色々な話を聞く割には、小・中学校の図書館が見えてこなかったのですが、これからは気軽に交流を図れるようになりました。

学校図書館のことをみんなで考えて

調査の進行と時を同じくして、都立中央図書館を会場に、図書館問題研究会・親子読書地域文庫全国連絡会・児童図書館研究会・学校図書館問題研究会の4団体の主催で「学校図書館に専任の専門職員を！」というシンポジウムがありました。

この4団体は、昨年の夏に相次いで「学校図書館に専任の司書を！（又は専門職員を）」というアピールを出し、それをきっかけにまずできる事と開いた会でした。

学校図書館の問題は取り上げられる事が少なく、今まで一般の方の目にふれにくいものでしたが、学校図書館の中だけでなく、公共図書館に勤める方・文庫の方等、図書館に興味を持っていらっしゃるさまざまな方々が集まった画期的な会でした。

当日は、司書のいる岡山市の学校図書館の一日がスライドで上映され、文庫のお母さん・司書のない小学校の先生・中学校図書館の司書・大学で図書館学を学生に教えていらっしゃる先生の4人の方から子どもをとりまく読書環境についての発表があり、それぞれの立場から人が必要と呼びかけました。

「人」の問題とは

「人」の問題を考えるときにその人がどんな人か、身分的な問題も考えていく必要があるという

ことが主催者側もわかってはいたのですが、学校図書館に職員がいないことを知ったばかりの人から、学校図書館法改正運動にかかわり現在色々な立場で学校図書館で働いている方達の身分について考えている方達まで、認識の差がかなりある幅広い人々がシンポジウムに参加される事が予想されたので、できるだけ「人」の身分的な問題については今回は深く追求せず、人がいる学校図書館の良さを知ってもらおうという主旨で討議を進めて行ったところ、学校図書館法改正に取り組んでいらっしゃる方々から、「専任の専門職員という形の位置づけでは、現在のように色々な職名の職員（司書教諭・司書・学校司書・実習助手・主事等）ができてしまい、職名を統一して運動を進めていかなければ、今学校現場で教員との職種の違いで差別を受けたり苦しんでいる人の二の舞いをしてしまう」という指摘があり、会の混乱がありました。が、この混乱をきっかけに学校図書館関係者以外の方が、「人」についてのいちばん大きな問題である学校図書館法についての学習会をもちあはめています。

学校図書館法の改正運動は何十年という歴史の中で動き続けていますが、学校図書館関係者以外の方々には特に身分上の問題でわかりにくいところがたくさんあると思います。

司書が図書館にいる学校の教員でさえ、現在行政職の司書のことを司書教諭だと思っている現状で、私達の立場の問題を国民的問題としてきっちり押さえ、一般の人々に理解してもらうためにはまず、学校図書館の司書の仕事を知ってもらい、そこにいる子供達の姿を見て頂くのが一番だと思います。そして、「人」の身分の問題についても学校図書館の職員の中だけでなく、色々な方々からご意見を頂き、子供にとってどんな職員がいちばん望ましいか考えて行かなくてはならないと思っています。

(きのしたみちこ: 埼玉県立岩槻商業高等学校司書)

フィラデルフィアの空はもう晴れていますか

自由の森学園 大江 輝 行

康裕、成田まで見送りに行けなくてごめん。年度末の職員会議がながびいてしまってね。その時間が近づいてくると、空港でのきみの家族や友人たちの賑わいまでが想像されて、まいったなーなんて思いながら、ぼくは一点をみつめていた。

康裕はこの春卒業後すぐにフィラデルフィアのラングウェジ・センターに飛び立った。きみの手紙では朝から雪が降っているとあるが、こちらもずいぶんはっきりとしない天気が続いているのだ。学校の回りも、このところ連日雲が低く垂れこめている。そう言えば、春休み中、学校に通って図書整理をしていたのだけど、あれはいつだったかなあ、雨が小止みになった昼過ぎ、ふと拭いていたテーブルから顔をあげてバルコニーの方を向くと、向かいの森から浄水場にかけて見事な虹がかかっていた。虹の外縁には灰色の雲が覆いかぶさっていたが、その内側では澄んだ空が彼方へと広がっている。康裕、フィラデルフィアの空は、もう晴れていますか。

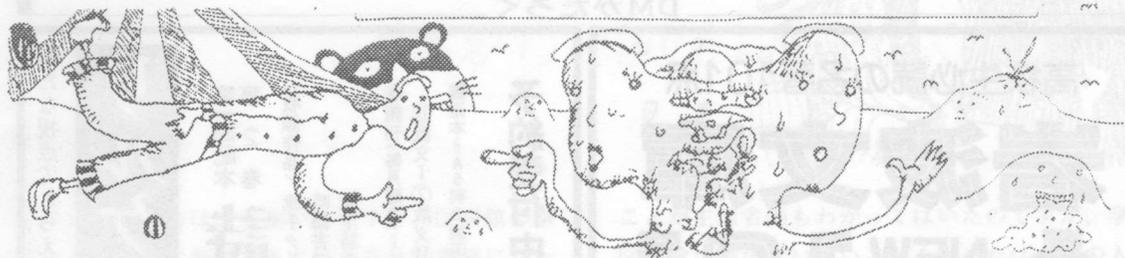
また、雨が降ってきた。今頃の雨は降るたびにごと季節を一枚一枚めくっていくようだけど、ぼくたちは意識して自分のことを振りかえらなと、どうも新たなものをめくりえない、ね。

《この前の土曜日、インターナショナル・ハウスという所でスプリング・フェスティバルがありました。そこの小さなホールで各国の留学生や移民者たちが歌や踊りを見せてくれました。小さな子供が出てきて自分の国のものを披露する。そこで一人のおじいさんが、ある歌を歌ったのです。なんだと思います？「ケセラ・ケセラ」。そう、ぼくたちがよく歌っていた、あの“ケサラ”なんです。すごく嬉しかった。一緒にくちずさんでしまいました。…そこで聴いた歌をなつかしんでしまったぼくは、今になって自森での生活が「終わったんだな」とつくづく感じます》

康裕たちの学年が高1になった時、図書館も開館3年目を向かえていた。開館1年目は、蔵書も書架も充分ではなく、新しい学校での生徒たちの

激しいエネルギーがうずまくホールのような存在だった。2年目に入り、学校や生徒も多少落ち着きを見せ始め、図書館も図書館らしくなってきた。この頃から、ぼくは頭の中に次のような座標を描き始めるようになった。横軸は“着目領域”を、縦軸は“貸出数”をあらわす。横軸と縦軸の交わるスタート点には、姿勢としての「資料提供」の追求、システムとしての「リクエスト・予約制度」を置く。以後、右への横軸と上への縦軸の移動点をかけあわせた方向にぼくたちの図書館活動が展開していく。図上の運動を矢印であらわすとして、その間、一貫してその矢を牽引して行くのは「本を選ぶ」行為、すなわち、主体的な選書であった。

康裕たちの3年間は、次のような順序で横軸を右に移動し、それにともなって縦軸も上がり、図書館活動の面が広がって行った。①ヤングアダルト・ブック（児童書・文庫）②コミック③マガジン④ミュージック・テープと。…それは、リクエスト制度の確立ときみたちの選書会議への自発的な参加が始まったのと期を一にしている。都立江東図書館や藤沢市民総合図書館のヤングアダルト・コーナーへ、マガジンハウスや徳間書店の雑誌編集部などへと、みんなでよく歩き回り楽しんだ。さらに、⑤ミニコミ（書籍になっていないビラ・パンフレット・自主テキスト類）⑥テーマ別資料へと進んで行く。貸出も、生徒1人あたり年間約13冊（貸出指数13）を超えた。そういう、ミニコミ資料に留意しその収集を始めた時、ちょっとびっくりしたことがあった。きみの同期の哲朗の発言さ。《ぼくたちには、現在を生きるための情報をすべて知る権利がある》…原発資料収集をめぐるものだったけど、それが生徒から出てきたことにぼくはすごく感動した。その発言と具体的な行動はさらにきみたちの中に拡がり、それは、学校の周囲の森を根こそぎ伐採して大きなゴルフ場にしようとする動きに対して集中していく。きみたちはテーマ別棚に“自然保護”（水・農業・ゴルフ場・リゾート等）を設け、半年間の連続講座（授業）を可能にし、きみたちが卒業する直前



には、中央公民館での地元市民との「柳川堀割物語」共同上映運動まで実現していった。……

そうだな。ミニコミやテーマ別へときみたちと踏み込んでいった所から、だんだんぼくの中で明らかになってきた1つの領域がある。生徒と共につくる学校図書館の活動に、さらに次の姿が見えてきた。康裕、それはなんだと思う。「教科との連携」なんだ。あくまでも“生徒の主体的な参加”を軸とする「教科との連携」を、つくり出していくことなんだ。

康裕、1990年の3月の卒業式と4月の入学式は、日本にとって大きな問題を投げかけたのだけど、フィラデルフィアの空の下ではそれがどう見える？「日の丸」「君が代」のとき。自由の森では、今後も「日の丸」をあげさせ、「君が代」を歌わせることはない、学園長は生徒に直接語りかけた。それには、様々な理由があげられるが、根本的には次のように考えられる。教育の現場や、授業の中身は、決して国やそれに類する強力な権力によってつくられるものではないからである、と。では、教育や授業の中身をつくっていく主体はどこにあるのか。学ぶということの内実は誰がどのようにつくっていくのか。……

図書館の話に絞ろう。学校図書館は「教科との連携」という仕事を通してその所に深く関わり、と思う。学ぶ権利や主体は生徒にある。それを手助けする場は主として授業である。本来学問や芸術に関わる教科という領域で、司書は生徒や教師・教育研究者等と自由に連携し、豊かで幅のある資料提供とレファレンスを通して、創造的な授業をつくりだすのに協力する。少しずつはやってきたのだけれど、これからは仕事の中心に据えて粘り強く取り組んでみようと思う。生徒であった康裕はよくご存じのように、自由な、ということはかなり個々の教科に裁量があるわけだから、それを学ぶことの本質的な喜びは同時にアクロバティックな困難さも抱えこむことになる。しかし、学

校図書館において「教科との連携」は、司書が生徒や教師や学校とその仕事を通して関わっていく本来の「権利」であり、また学校における「自由」への創造に参加する契機になる、とぼくは思う。

3月末日に、求から電話がかかってきた。彼は4月から建築設計事務所に勤める。今日は一日中、友だちに電話をかけまくり、ですよ。明日からは見習いですけど、社員の私ですからねー。遅刻しないようにしようと思いますが、ぼくは別に緊張しているわけではありませんから、ええ…。

春休みの中頃、浩生が個人誌の最終号を印刷しに横浜からやってきた。3日かかって200部(70P)を刷りあげ、小雨の降る中、一晩ぼくの家泊まり、翌朝リュック一杯に綴じた冊子を詰め込んで帰って行った。近々、きみの手許にも届くだろう。

康裕、きみが立った2日後、半年ぶりにさっちゃん学校にあらわれた。インタビュアーの拓朗やカメラマンの直人と一緒に卒業アルバムの写真を撮りにやって来たのだ。なにしろ、さっちゃんは長期病欠でずっーと学校にこれなかったからね。アルバムは、一人1ページ。大きく引き伸ばした一枚の写真と、その人への10項目のインタビュー。1ページごとにかけてがえのない個人との対話が展開する構成をとる。呼ばれたので見上げると、さっちゃんは、屋上のさらにその上に脚の長い脚立を立て、両手をあげて万歳をしている。後ろの森の上方から雲がどンドン降りてくる。おーい、そんな所で撮っていると雲に軀をさらわれるぞー。だいじょーぶ、よ。あたしは、かぜとの付き合いが長い、の。雲に、乗るわー。

康裕、また、みんなで“ケサラ”を歌いたいね。こちらは曇天続きの日々だけど、それでも向かいの森から浄水場にかけて虹がかかるのを、ぼくは見たよ。

(おおえ てるゆき：自由の森学園司書)

高校生必読の名著101点

岩波文庫



NEW 101
1990年

全101点 / 117冊
セット定価47,470円

■読書指導にご利用下さい、小冊子「岩波文庫NEW101」進呈、小社営業部「文庫」係宛、ハガキにてご請求下さい。

岩波書店

〒101-02 東京都千代田区一ツ橋2-5-5

予約受付中!

河出書房新社
東京都渋谷区千駄ヶ谷2

●続刊(毎月配本) ①詩集Ⅰ ③詩集Ⅲ ④詩集Ⅳ ⑤詩集Ⅴ
⑥散文Ⅰ ⑦散文Ⅱ ⑧評論 ⑨日記 ⑩伝記
■造本 A5判上製函入 / 600頁 / 9ポ通し組み / 月報つき

●第2巻 詩集Ⅱ 6月下旬刊 ●予価8800円

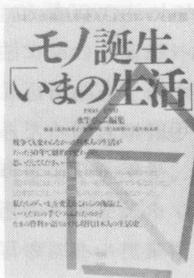
〈収録作品〉旗手クリストフ・リルケの愛と死(塚越敏訳) / 時禱書(金子正昭訳) / 形象詩集(上村弘雄訳) / 献呈詩(塚越敏訳)

リルケ全集 全10巻

新たな視点でとらえた詩人リルケの全貌!

日本人の暮らしを変えた133のモノと提案 モノ誕生「いまの生活」

1960-1990



水牛くらぶ編集

戦争でも変わらなかった日本人の生活がたった30年で劇的に変わった。2DK住宅、即席ラーメンからワープロまで、私たちの「いま」を変えた商品は、いつ、誰の手でつくられたのか? 今までの資料が語る現代日本人の生活史。5900円

*価格は消費税込みです。
東京都千代田区外神田2-1-12
電話(255)4501

晶文社

韓国の無形文化財と貴重な民俗資料のかずかずをカラーで収録

韓国の民俗文化財 全3巻

韓国文化公報部 編 セット価格 60,000円

- ①芸能と工芸編 (78項目、306図、334頁)
松原孝俊監訳(神田外国語大学) 定価20,000円
- ②民家編 (135項目、334図、273図面、378頁)
富井正憲監訳(神奈川大学) 定価22,000円
- ③服飾と信仰資料編 (73項目、334図、298頁)
伊藤亜人監訳(東京大学) 定価18,000円

図書コード(ご利用ください)

JLA	①89030696	②89030697	③89030698
NPL	①89-54919-01	②89-54919-02	③89-54919-03
OPL	①89573174	②89573166	③89573182

岩崎美術社 〒113 文京区本駒込3-39-6 (定価は) 振替東京6-90649 ☎(824)1731 税抜

感動の青春讃歌!感動の名場面!

深紅の大優勝旗に賭けた青春の軌跡

1960年選抜高校野球大会
松尾俊治著
春を告げる選抜高校野球大会は、夏の高校野球大会とともに、今は国民的人気を得て、年々、盛りあがりを見えています。大正十三年の第一回大会より、今年(一九九〇年)で六十二回目を数える大会の歴史は、多くの名勝負、快記録を生みだして多くのファンを魅了しつづけています。
本書は、この汗と涙にいろどられた青春のドラマを再現した、感動の物語です。付録として、大会出場者全名簿・大会記録も掲載。

選抜高校野球優勝物語

5月下旬発売予定!! 予約受付中



BASEBALL MAGAZINE SHA
株式会社ベースボールマガジン社

〒101 東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎(238)0181

近代日本の夜明けともいえる
幕末から明治へ この激動の
歴史の転換期に生きた3人の
女性の数奇な運命

明治に

生きた女たちの歴史

明治建設 「エル・ドラドおけい」の物語

木村 毅 著 / 四六上 / 1,854円

ラグーザお玉自叙伝

木村 毅 著 / 四六上 / 1,545円

オキヌさんの物語

V・ピークリ 著 / 四六上 / 2,800円

文化の架け橋 株式会社 恒文社
をめざす 会社

〒101 東京都千代田区三崎町3-10-10 ☎(238)0181

さまざまな疑問に答えるユニークな博物図鑑

ビジュアル博物館 全12巻

第1期4冊 刊行開始!

- 1 鳥類 2 岩石と鉱物
3 骨格 4 武器と甲冑

●A4変型・オールカラー/定価各3,500円(税込)
●続刊予定
第II期4冊 5 樹木 6 池と川の動植物 7 蝶と蛾
8 貝と甲殻 (6月刊行予定)
第III期4冊 9 哺乳類 10 海辺の動植物 11 植物
12 恐竜 (9月刊行予定)

同朋舎 本社 〒600 京都市下京区中堂寺鍵田町2
Tel.075-343-0621 振替京都市5-22982

文化としての音楽 一面期的研究シリーズ

民族音楽叢書

第I期全10巻 監修 国立民族学博物館教授
1990年4月より刊行開始 藤井知昭

- 1 職能としての音楽(4月刊) 6 観光と音楽
2 女性と音楽(5月刊) 7 環境と音楽
3 語りと音楽(4月刊) 8 民族とリズム
4 儀礼と音楽I 9 身体行動と音楽
5 儀礼と音楽II 10 現代と音楽
定価各3,000円(本体2,913円)

東京書籍 東京都文京区本駒込6-14-9 〒113 ☎03-942-4111

アジア祈りの風光

中塚裕写真集

ASIA

人間・歴史・風土

「祈りの世界、それがアジアだ」
をテーマにアジア大地に一大
文化の華を咲かせた仏教遺
跡やその自然と共生する人々
の暮らしをみつめた紀行写
真集。

日本図書館協会選定図書

- カラー写真集
- 250mm×250mm 上製・函入り
- 96頁(カラー84頁/文12頁)
- 写真・中塚裕
文・為田英一郎
- 定価4,800円(本体4,660円)

裕林社 〒102 東京都千代田区二番町9-2
TEL.03(262)5095 FAX.03(262)5368
振替 東京 7-113007

土の世界 — 大地からの
メッセージ
定価1854円(税込)

元素発見の歴史
全3巻完結 定価18025円(税込)

キリスト教史
定価24720円(税込)

建築の事典
定価18540円(税込)

パソコン・マイコン百科
定価6386円(税込)

総合図書目録'90あり、ご請求下さい

朝倉書店 東京都新宿区新小川町6-29
〒162 ☎03-260-0141

●日本語学習者のための

ふりがな英和辞典

B6判/980ページ 定価2000円(税込)

●英米の商品名を詳しく解説

英和商品名辞典

山田政美 編著 A5変型判/576ページ
(6月下旬発売) 定価3800円(税込)

●よく使われる技術用語3万の3か国語訳辞典

日・英・西技術用語辞典

小谷・郡 編著 B6判/1350ページ
(6月下旬発売) 定価6400円(税込)

研究社 〒102 東京都千代田区富士見2-11-3
☎03(288)7777 販売

身近な現象の物理と化学

鈴木智恵子 著 理科がおもしろくすきになる本。数式
を使わずに、280余枚の図版で、物理や化学の基礎的な
概念をわかりやすく説明する。何気なく見すごしてい
た身近な現象を、実験→解説→例から明快に説く。
2678円

生化学入門

村上枝彦 著 化学史と生物学の立場からまとめた入
門用テキスト。イラスト多数。1648円

教養のための天文・宇宙データブック

比田井昌英・寿岳潤・高瀬文志郎 編著 暦、太陽系、
銀河宇宙、そしてそれらを観測する手段など、最新の
データ集。1545円

日本産蝶類幼虫・成虫図鑑

I タテハチョウ科
手代木求 著 卵から成虫まで生活史のすべてを網羅。
●内容見本呈 18540円

東海大学出版会 東京都新宿区新宿3-27-4
東海ビル ☎(03)356-1541

世界芸術写真史

1839—1989／タルボットが写真術を完成させてから150年。この間の歴史を論文と、絵画の伝統に沿った初期の写真、激動の世界を記録したドキュメンタリー、そして新しい映像言語を追求したアートなど269点の写真で構成した大著。A4判・416頁。 9000円(税別)

1990年度図書目録同送

リポート

〒171 東京都豊島区南池袋2-23-2(電)03-983-6191

サン＝テグジュペリ著作集

[全12巻・完結]

「南方郵便機」の処女作から、操縦桿を握ったまま生命を絶ったサン＝テグジュペリの44年の生涯——サン＝テグジュペリの思想と文学は、すべて飛行機とともにあり、それから生れた。硬い物質世界との共存を運命づけられているわれわれにとっての一つのシンボルである彼の著作と資料を、全12巻でおくる。

①南方郵便機・人間の大地②夜間飛行・戦う操縦士③人生に意味を④母への手紙・若き日の手紙⑤手帖⑥-⑧城砦1-3⑨-⑪戦時の記録1-3 別巻・証言と批評
〔四六判上製函入／月報付／平均350頁／揃価¥37947〕

東京文京本郷3 みすず書房 ☎03(814)0131

高校で学ぶ「おもしろさ」の発見

高校で何を学ぶか

全6冊

編集委員＝乾彰夫・太田政男・小島昌夫・田中孝彦・堀尾輝久

- ①国語と私たち
- ②理科と私たち
- ③数学と私たち
- ④外国語と私たち
- ⑤社会科と私たち
- ⑥労働・職業・生活の学習

46判カバー
各1340円(税込)



東京都文京区本郷2-11-9 大月書店 ☎03(813)4651<代表>

京大日本史辞典編纂会編 (本広告の定価は税込み)
新編 日本史辞典 A5判一四四〇頁 二二,〇〇〇円
 古代から平成元年、昭和天皇までの約四八〇〇項目に最新最高の研究成果を盛り込んだ本格的辞典。付録、索引完備。いよいよ五月末刊行！書店へご予約下さい。
 京大西学辞典編纂会編
新編 西洋史辞典 A5判一一一四頁 一五,〇〇〇円
 最新の研究成果による本文五千項目。付録、索引完備。
 京大東洋史辞典編纂会編
新編 東洋史辞典 A5判一一三八頁 一八,〇〇〇円
 アフリカまで収めた最新六千項目。詳細な付録と索引。
 水野清一・小林行雄編
図解 考古学辞典 B6判一一二頁 一五,〇〇〇円
 日・中を中心に全三千項目。項目毎に写真図版を付す。

東京創元社 162東京都新宿区新小川町1-5 ☎268-8231/振替東京6-1565

限りなく広がる知識の世界

読む辞典 見る辞典 楽しむ辞典 遊ぶ辞典 教養の辞典 **既刊350点突破!**

辞典全点フェア

東京堂出版・創業100周年記念フェア

全国各地の書店で開催!

記念出版

市町村名変遷辞典

9月発売 予約募集中
 楠原佑介編 本書はすべての自治体について、併合・吸収などの変遷過程を示した。 予価13000円

東京堂出版

〒101 東京都千代田区神田錦町3-7 ☎03(233)3741 最新版辞典目録送呈

ミネルヴァ書房

正義と平和

正義と平和はどれほどの関連をもつのか。

カウフマン著 竹下賢監訳 2500円

概説西洋哲学史

「哲学すること」を目指すユニークな書。年表・索引付。

峰島旭雄編著 2600円

アメリカ合衆国

●戦後の社会・経済・政治・外交 その変貌過程と展望。

福田茂夫・野村達朗・岩野一郎編著 2500円

イギリス文学史

時代思潮・ジャンル別・代表作家と作品別に概説する。

はじめて学ぶ 神山妙子編著 2600円

アメリカ文学史

●植民地文学からポストモダンまで 別府恵子・渡辺和子編著 多角的に概説する。 2500円

植民地文学からポストモダンまで

〒607 京都市山科区日ノ岡 ☎075(581)0296 価格は税込です。